中四国ブロック

ブロック活動報告

新しいアリーナで下関市ボッチャ大会を開催！

初心者から競技志向まで楽しめる2部開催

REPORTER 武居ひとみ（中級指導員／山口県ボッチャ協会）

大会に参加したみなさん

令和6年8月に完成したばかりの下関市総合体育館（J:COMアリーナ下関）で、10月6日（日）に、下関市パラスポーツサポートセンター主管によるボッチャ大会が開催されました。

新しい香りが漂う体育館の床は、アスリートに配慮された衝撃吸収素材で、また天井も高く開放感に溢れており、第1印象は「明るくて広い!」でした。

このボッチャ大会は毎年開催されており、障がいの有無に関わらず誰でも参加することができ、視覚障がいや知的障がいの方も参加されています。また、初心者から全国大会を目指す選手まで幅広い選手が個々の目標に向かって競技に取り組めるよう、「レクリエーションの部（第19回大会）」と「チャンピオンの部（第3回大会）」が行われました。それぞれに合わせたルールを設けることができるのも、障がい者も健常者も対等に対戦できるのも、ボッチャの魅力だと思っています。大会に向けてきめ細やかな準備、運営をしていただいた下関市パラスポーツサポートセンターの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。また、パラスポーツ指導員の資格を取得している山口県ボッチャ協会の審判員も多数参加し、一緒に大会運営に携わることができ、参加者と共に楽しい1日を過ごすことができました。

競技レベルや目的に応じて大会を選んで参加

山口県ボッチャ協会では県内外で活躍できる選手の育成、ボッチャをきっかけに共生社会の実現と障がい者への理解を深めることを目的として活動しています。体験会などで実際にやっていただくと誰もが本気になり、重度障がい者である選手たちを見て「かっこいい」と言ってくれる方もいます。そんな一つひとつが選手にとっての喜びと、障がい者に対する偏見をなくすきっかけになっていくことを願っています。これからもボッチャの楽しさを多くの方に知っていただけるよう積極的に活動していきたいと思っています。

接戦続出で盛り上がりました

九州ブロック

ブロック活動報告

「第43回大分国際車いすマラソン」

伝統の国際大会で活躍するパラスポーツ指導員

REPORTER 池部純政（大分県パラスポーツ指導者協議会会長）

レース前日にカレリア竹町ドーム広場で開催される開会式も恒例イベントで、多くの市民が訪れます（写真提供：大分国際車いすマラソン事務局）

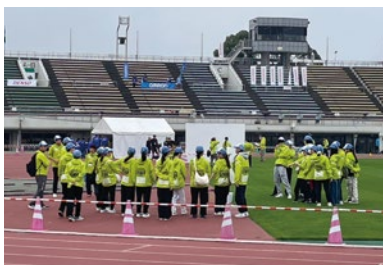
令和6年11月17日（日）午前10時……今年も「第43回大分国際車いすマラソン」のスタートを告げるピストルが大分県庁前に鳴り響きました。今年は12か国・地域から41名、国内30都道府県から149名の選手が出場。夏に行われたパリ2024パラリンピック競技大会のメダリストも出場して、男女各クラスともに白熱したレースが繰り広げられました。

この大会には、毎年2,000名以上のボランティアが参加しますが、大分県パラスポーツ指導者協議会からも競技役員を派遣しており、今大会は総勢38名が参加しました。また、大分県内唯一のパラスポーツ指導員資格認定校である大分リハビリテーション専門学校のみなさんにもご協力いただいています。

業務内容としては、大会前日は「クラス分け」がスムーズに進行するよう日本パラ陸上競技連盟クラシファイアの補助を担当します。レース当日は、スタート前のウォーミングアップエリアの安全確保と選手サポート、そしてレース中にはコーナーや折り返し地点を中心としたコース安全確保を担当し、フィニッシュ地点となるジェイリーススタジアムでは、選手と介助者や観客が交差するポイントにて誘導担当を担いました。

大会前には、事前研修会を開催し、それぞれの業務を理解するとともに選手の支援方法の確認を行います。その甲斐もあり今年も数件の転倒が発生しましたが、迅速かつ適切な支援ができました。

毎年参加する選手や指導員仲間と再会して、「おかえり」「ただいま」と声をかけあうことができるのも長年続いてきたこの大会の素晴らしさです。大分に深く根付いたこの国際大会を競技役員としてしっかりと支え続けることができるよう、これからも研鑽に励んでまいりたいと思います。



大分リハビリテーション専門学校のみなさんも大勢が参加してくれました